



- ☆生き生きとした内川の子ども
- ・進んで学び、よく考える子ども
- ・思いやりのある、やさしい子ども
- ・元気で、たくましい子ども

## 登下校の子どもの安全をどう守る？



6月28日（金）午後1時40分頃、昼下がりの穏やかな集団下校の風景は惨状の現場に一変した。東京・練馬で男児3人が切りつけられた事件。男は無表情のまま男児らに襲いかかった。「痛い」「怖い」。恐怖に泣き叫び、逃げ惑う児童ら。男を追い払い、最悪の事態を食い止めたのは、横断歩道のそばで登下校を優しく見守っていたおじいさんだった。

「早く逃げろ！」

横断歩道を渡る1年生の児童十数人に、ボランティアで誘導員を務める広戸勇さん（71）が声を振り絞って叫んだ。

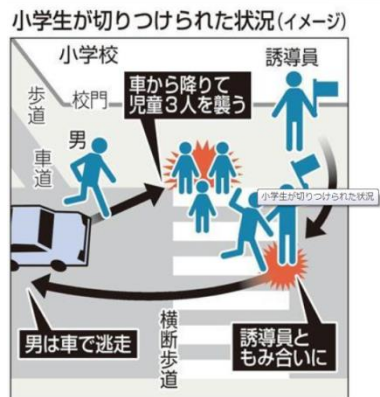
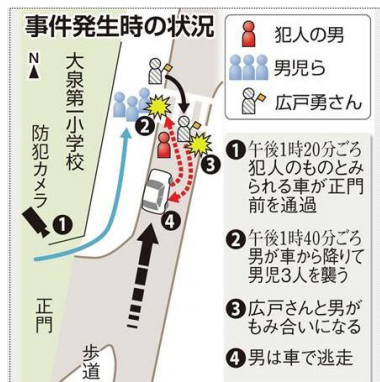
児童の列に、白のTシャツ、口ひげを蓄えた丸刈りの男が、無表情のままにじり寄って来るのが見えた。手ぶらに見えたが、男に襲われた男児の首からは血が流れ出していた。被害男児と同じクラスの男児（7）は、広戸さんの声を聞き、とっさに校舎に向かって逃げ出した。

児童らが広戸さんの横で信号待ちをしていたとき、近くに青色の車が止まり、男が降りてきた。男は横断歩道を渡っていた2人に切りつけ、すぐに振り返り、子供の首の高さでナイフを振り回してきた。学校とは反対方向に逃げた男児は男に捕まり、腕を切りつけられた。ナイフは筋肉にまで達していた。

ひるまぬ男。泣き叫ぶ児童。恐怖心はあった。だが、入学間もない子供を前に「逃げるわけにはいかなかった」。1メートルほどの長さの誘導旗を振り上げ、男に立ち向かった。一步も引かなかった。

「先生、大変だ」。広戸さんが男を食い止めている間、被害男児らより後に集団下校を始めた別の児童らが学校に駆け戻り、教諭らに異変を伝えた。「『痛い、痛い』と言っていた。男の人の姿は本当に怖かった」という同級生の女児（7）は、恐怖を押して、けがをした男児を保健室まで連れて行った。

教諭らが駆けつけると、広戸さんが「怖いよ、怖いよ」と泣きじゃくる男児の首の血をぬぐっていた。「お母さんが来るから。大丈夫だから」。広戸さんは男児に言い聞かせた。「お母さん、来てくれるかな」。うずくまる男児を教諭2人が抱きかかえた。



### 小学校の「正門前」は盲点？

日本こどもの安全教育総合研究所の宮田美恵子理事長は、学校の正門前は「むしろ盲点だ」と指摘する。

「2001年に起きた大阪教育大学付属池田小学校の無差別殺傷事件以降、学校内への侵入に関してはどの学校も神経質になり、施錠やパトロールを強化していますが、**正門を出てすぐというのは、学校と地域をつなぐ地点で、防犯上は盲点**となっている。09年に前橋市で男子児童が襲われた事件も、切りつけられたのは正門を出てすぐのところでした」

「諸外国では校門を一步出たら家庭の責任だが、日本では通学路の安全を誰が守るかはあいまいになっている。特に**正門を出てすぐは、学校の先生の目は離れており、かといって保護者の目も届きません**」

保護者や学校関係者にとって悩ましいのは、1人で歩かない、薄暗いところを通らないといった一般的な犯罪対策が、今回のような無差別に大人数を狙った事件の場合では、むしろ逆効果になる可能性がある点だ。

「よく、襲われたら大声を出す、防犯ブザーを鳴らす、などといった防犯教育がされているが、いくら訓練をしても緊急時には大人でさえ足がすくんで頭が真っ白になる。こういう事件が起きるたびに集団下校の是非が問われるが、誘拐や性犯罪の抑止には**集団下校は一定の効果がある**わけで、どんな犯罪の対象になるかが誰にも予想できない以上、**どんな防犯策や防犯教育がよいかを一概に言えない点が非常に難しい**」

# 内川小学校の子どもたちの命を守る！

## 登下校指導の確認



- 7時15分頃：茗荷地区児童1名（通学バス）、丸太魚屋前で下車  
○ 校長（教頭）が、丸太魚屋で待ち、茗荷の児童1名、内川の児童6名とともに学校まで歩いて登校する。途中、トキノスの2名の児童と横断歩道付近で合流し、計9名の児童と昇降口まで一緒に登校する。（7時35分頃学校着）
- 8時05分頃：真木野地区児童6名（通学バス）  
○ 校長（教頭）が、学校下道路で待ち、昇降口まで一緒に登校する。（8時10分頃学校着）

- 内川地区児童3名（保護者の車）

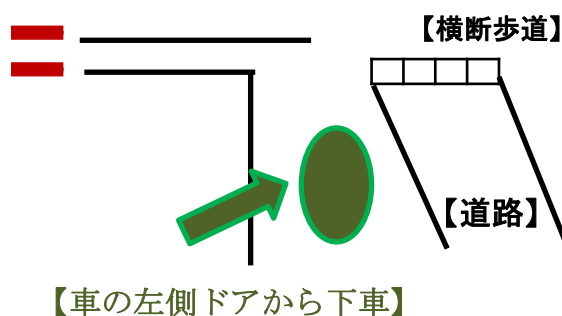
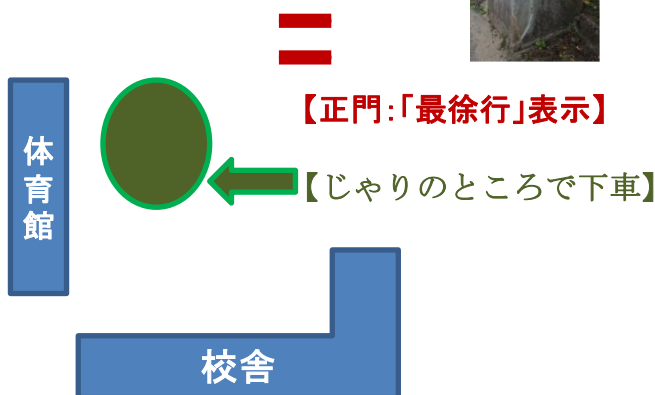
- 保護者の車で登校する。

<駐車位置の確認>

- ① 校地内で下車させる場合



- ② 学校下道路で下車させる場合



- 15時15分頃：茗荷地区児童1名（通学バス）  
○ 校長（教頭）及び教員最低1名が、学校下のバス停車場まで行きバスが来るまで一緒に待つ。
- 15時20分頃：内川地区児童7名（徒歩）  
○ 校長（教頭）及び教員最低1名が、子どもと一緒に歩いて下校する。トキノスの2名の児童を見送り、5名の児童と丸太魚屋まで一緒に歩く。丸太魚屋前で、迎えに来ている保護者に引き渡す（1年生のみ）。
- 15時20分頃：内川地区児童4名（保護者の車）  
○ 保護者の車で下校する。
- 15時45分頃：真木野地区児童6名（通学バス）  
○ 校長（教頭）及び教員最低1名が、学校下のバス停まで行きバスが来るまで一緒に待つ。



## 坂戸の児童襲撃、凶器は木の枝？写真撮られ怒る

埼玉県坂戸市の千代田公園で7月2日夕、小学校の児童2人が男にカッターナイフのようなものを押しつけられたとした通報で、児童が公園のベンチで寝ていた男の写真が無断で撮ったことを発端に、怒った男が木の枝を振り回し児童の腕に痕がついた可能性があることが3日、県警幹部への取材で分かる。男は、公園のベンチで寝ていたところ、児童が近くで大声で騒ぎ、携帯電話で撮影したため、怒って追いかけたという。児童は公園からいったん逃げたが公園に戻ったところ、男が木の枝のようなものを振り回し、男児（11）が左腕に、女児（10）が右腕にひっかかれたような痕ができたという。

いろいろな事件があります。地域で子どもを守ることが大切ですね。子どもは地域の宝です。